



▲ オバド Fes

「罰則規定 雑感」

校長 崎下 謙二

令和三年が明けました。コロナ禍での不自由な生活が牛歩のごとく改善され、もとの日常に戻ることを願って、我慢と自粛の日々です。

先日発表された政府のコロナ改正法案に、罰則規定が盛り

清 流

編集・発行
豊橋市立中部中学校
豊橋市舟原町154
電話0532-54-8108
Fax 0532-57-1963

込まれるそうです。具体的には、休業や営業時間短縮の命令に

応じなかった事業者に過料を設けるといふものです。また、

感染者が入院を拒んだり、保健所の指示に従わなかったりした場合は、懲役または罰則金が科せられるという案まで出さ

れました。街頭インタビューを見ても賛否両論ありますが、みなさんはどう思いますか。

話は変わりますが、ごみ・空き缶・たばこのポイ捨てを条例で禁止している自治体は多く

あり、守らない場合は条例違反となつて、何らかのペナルティがあります。シンガポールのよ

うに、ガムをかむこと自体禁止されている国もあります。果たして、法で縛られることによ

つてのみ秩序が保たれているとしたら、それは人間的な生活

でよいのか、それとも罰則が

あるからやらないのではなく、自身の内に正しい判断基準をもつて、他に流されることなく

行動したいですね。

三年生のみなさん、卒業おめでとうございます。制約の多い



▲ 授業風景

校則やきまりがあるから守るのではなく、「やってはいけないことはやらない」と、公正・公平な判断ができる心をもちたいものです。本校には「自由と責任」という生徒会のキャッチフレーズがあります。他人が見ているから、法律や条例があるからやらないのではなく、自身の内に正しい判断基準をもつて、他に流されることなく行動したいですね。

三年生のみなさん、卒業おめでとうございます。制約の多い

中、友だちと過ごした楽しい思い出を胸に、笑顔ではばたいしてほしいと思います。

一、二年生のみなさん、コロナ禍を理由に、努力することをあきらめないでください。継続は力なりです。

保護者のみなさま、学校からの情報発信の機会が減り、心苦しいかぎりですが、引き続き学校の新しい生活様式を支援していただきますよう、お願いいたします。



▲ 合唱コンクール（3年）

防災・福祉体験を通して

一年四組 川崎 良太

僕たちは総合的な学習の時間で防災体験や福祉体験など、貴重な体験をさせていただきました。

防災体験では、防災講話で避難所生活の大変さを知り、中学生の自分達が共助に参加する心構えが必要だとわかりました。福祉体験では、実際にアイマスクをして、視覚障害者が生活する怖さを体験しました。その体験を通して、障害者が暮らしやすい社会について深く考えることができました。

これらの体験を通して、身近にある地域や社会の課題にふれることができました。これからも、一つ一つの体験を大切にして、自分達の住む地域の暮らしに貢献したいと思いました。



職業学習を通して

二年六組 山田 真咲生

「人に助けてもらえるような人になること」三遠ネオフェニックスの鹿毛さんがおっしゃっていた言葉です。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で職場体験が中止になりましたが、その代わりに、講演会や職場訪問などで多くのかたがたから働くことについての話を聴きました。その話の中で、フェニックスには、百社以上のスポンサーがいることがわかりました。たくさんスポンサーがいるのはフェニックスが積極的に地域活動を行い、地域に貢献しているからだと言われました。私もふだんから周りの人たちの関わりを大切に、多くの人に助けてもらえるような人になっていきたいです。



人とかかわり

八・九組担任 朝倉なつ美 尾方宣仁

今年度は新型コロナウイルスの影響で、例年行われている小中ブロック交流会など、さまざまな行事が中止となりました。その分、日々の生活において、八・九組の生徒同士のかかわり、交流学級の生徒とかかわりなど、人とかかわりを大切にしてきました。

長縄跳びの練習で参加しようか迷っている子がいると誘いに行ったり、生徒会活動を「一緒にやろう」と声をかけたりする場面がありました。また、窓閉めを手伝うなど一緒に係活動に取り組むこともありました。定期テストが近くなると、わからないところを教える姿も自然とみられました。

交流学級では、英語で隣の席の生徒と英会話の練習をしたり、技術の授業で協力してものづくりをしたりする姿がありました。わからないときには友達が教えてくれ、上手にできると「すごい！」と称賛の声が上がり、安心して取り組むことができました。

いろいろな人とかかわる中で、子どもたちは笑ったり怒ったり泣いたりすることもあると思います。そういった活動の中で、人の心は育ちます。今年の八・九組の生徒たちも、勉強や運動だけでなく人間関係にも一生懸命取り組んでいました。そんな子どもたちを、これからも応援しています。



明るい未来へ突っ走れ

三年二組 竹森 斗渉

四月、期待や夢をもってスタートするはずが、不安ばかりのスタートになりました。オバドFesや合唱コンクールなど、例年通りとはいきませんでした。歴史ある行事を桃団团长として迎えられたことは幸せでした。

僕は、この一年を「残念な一年」ではなく、「苦勞した一年」と捉えるようにしました。これから先の人生でどんな困難が待ち構えているかわかりません。しかし、この「苦勞した一年」でパワーアップした僕たちは、明るい未来へ突っ走っていきます。



学校評価アンケート分析

教頭 澁谷 礼史

本校では、七月と十二月に学校評価アンケートを実施します。その結果を分析し、教育活動の見直しを図ります。対象は、生徒・保護者・職員で、調査項目は、学校全般・学力の保証(確かな学力)・キャリア教育・豊かな心、健やかな体・教師の力量向上・地域との連携・安全安心な環境の七領域で三十六項目です。

「1とても思う」「2やや思う」「3あまり思わない」「4全く思わない」から選択します。今回は、昨年の十一月に行われた生徒指導の研究発表に関わる内容を取り上げます。

自分の考えを小グループや学級全体に発信するとともに、仲間の意見を聞き、自分の意見と比べたうえで、自分の考えをより高めていく環境を作りたいと考えていることから、二つの質問について取り上げ、昨年度と比較してみました。

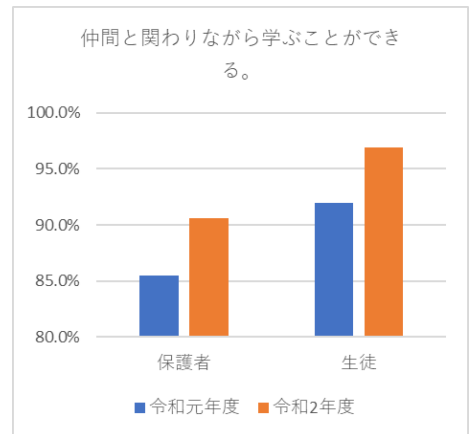
一つ目の設問は「**学校は、生徒の考え、調べたことなどを中心に行う授業では、仲間と関わり合いながら学ぶことができる**」です。これは結果を見ると、肯定的意見 **1**と

でも思う「**2**やや思う」の合計したもので、令和元年度(以下昨年度)では、生徒の回答が九十二%、

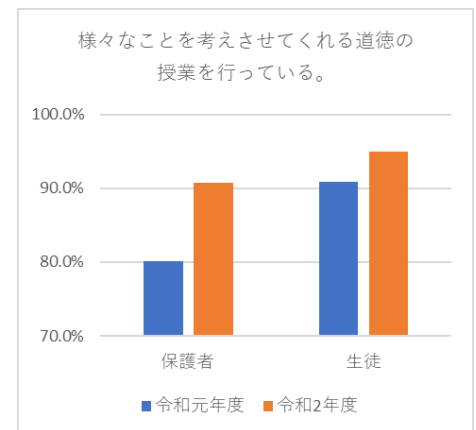
だったのが令和二年度(以下今年度)では、九十六・九%に上昇しました。また保護者の回答も八十五・五%から、今年度は九十・六%に上昇しました。今年は新型コロナウイルスの影響で、相談活動を中心とした仲間との関わり合いがしにくい状況でしたが、教員が「授業づくり部会」を中心に、授業形態を工夫した授業実践を行い、生徒がそれに応えている姿が見られます。

二つ目の設問は、「**学校は、わかりやすい内容を取り上げ、さまざまなことを考えさせてくれる道徳の授業を行っている**」です。道徳の授業については、昨年度より「特別な教科 道徳」としてスタートしました。本校では、道徳の授業時間を確実に確保する工夫と、「心づくり部会」を中心に、生徒の本音を引き出し、本音で意見を交換し合う授業のあり方を研究しました。肯定的意見で、昨年度生徒の回答が九十・九%だったのが今年度は九十五%に上昇しました。保護者の回答も八十・一%から、今年度は九

十・八%に上昇しました。教師の提示する資料を基に、生徒が一生懸命授業のテーマに基づいて考えている道徳の授業が展開され、定着してきていると考えられます。また、授業で生徒が作成した道徳の「一枚ポートフォリオ」や学年・学級通信をとおして道徳の授業の様子が家庭にも伝わったと思います。



昨年年度は、アンケートから見えてくる課題として、保護者の肯定的意見が教員・生徒に比べ低いことを挙げました。そこで今まで以上に学年通信や学級通信、ホームページ等とおして少しでも学校の様子を知っていただけのような努力をしました。その結果「学校は、生徒の活動の様子を学校新聞、学年通信、ホームページ



で伝えている」という質問項目において保護者の回答が昨年度八十八・六%から今年度八十九・九%でわずかながら上昇しました。今年度は新型コロナウイルスの影響で、授業参観や行事参観ができず、直接生徒のがんばりを見ていただくことができないなか、各家庭に学校の様子が伝わったとうれしく思います。来年度もウイルスの感染状況が心配されませんが、今年度の経験を活かし、職員一同がんばって子どもたちと関わっていききたいと思います。

